

★わたしの意見

## ファッション都市

### 雑感

玉田 暁 昌

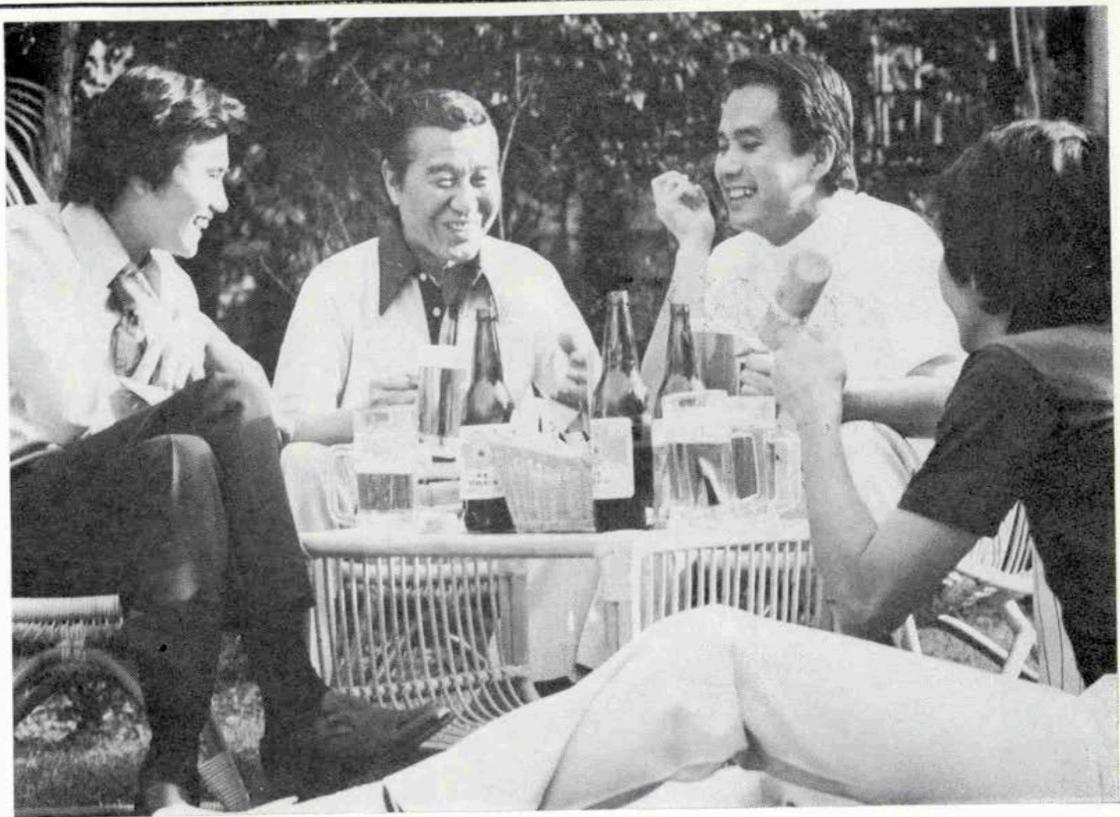
△神戸市経済局長▽



ごく丈の低い桂垣に囲まれて、キンセンカ、マツバギク、マリーゴールド、ロベリアなどカラフルな花の地模様が、中央にセットされた青竹の笈とつくばいを生かし純白の寒水石の海へ拡がり、海の中にロベリアでおおわれた石の島がみごとに映えている。これは日本庭園に洋花をとり入れ、日本庭園の素材とうまく調和させている一つの例である。最近、神戸をファッション都市にしようという声が各方面から盛り上っている。神戸が開港以来、蓄積しその地理的環境の中で育ててきたものを再認識し、新しい「神戸ファッション」を創造しようというものである。

一般に「ファッション」といわれるものを生んできた欧米の風土を考えてみたい。欧米のファッション都市を緯度で見ると、フランスのパリが北海道のはるか北、イタリヤのミラノが稚内あたり、アメリカのニューヨークが津軽海峡付近にあたる。このことはこれらの都市が年間を通して太陽の光がきわめて乏しいことを意味する。そしていずれも巨大な「石の文明」が築き上げた都市である。風土が基本的な文化のパターンを規定するものとするれば、欧米人は厳しい自然の中で、自然と対決し、ハードなものに対するやすらぎとして、ファッションというソフトなものを考えだしたとはいえないだろうか。われわれは恵まれた自然の中で、自然に従い、風土に生活を適応させ、ウェットな文化を作り上げてきた。今日欧米では、日本ではともすれば忘れがちなこのウェットな日本の文化の美しさが見直され研究されているという。欧風化をそのまま進歩だ、文化だとの考え方はここで大いに反省されなければならないだろう。

神戸がファッションを都市づくりの方向として考えるとき、神戸が単なる欧米の模倣の受け入れ都市ではなく神戸を通して諸外国の文化と日本の伝統の文化とが混然融合し、その中から生れる新しい「価値」が創造されるような位置を占めたいと思う。そのためにも、市民が優雅で知的に美しく自己を磨いていくことが一層必要となる。



マツ なにはともあれ…

ホップが痛快 **アサヒビール**

## 題三想隨



(第三回神戸まつりパレードより)

潜在的な中国人蔑視の思想がまだ残っているように思う。

昨日、テレビで中国に自分の娘を終戦後置き去りにして来たある老人が「わしは娘だけならまだ中国から引き取っても良いが、満人と結婚して、その子供達まで引き取る気は無い。」と喋っていた。

満人・満人と侮蔑的に呼び捨て、中国人とは一言も言わなかった。

彼は旧い中国と自分がして来た残酷行為にしか中国に対するイメー

ジを持っていないのだろう。私に

いわせると、自分が助かる為に足手纏いなる娘を捨て、そして彼女

が親切な中国人に拾われ育てられた事実に対して彼が恩義を感じる

のが当たり前だと思う。しかしそれほど汚ないものを見るまた自分の古傷を見るのを嫌がるような

暴言は許されないように思える。

日本と中国の国交が回復して八ヶ月、両国大使館も設立し、廖承

志訪日団も一カ月にわたる日本人の熱烈な歓迎の中の友好親善旅行を終え帰国した。しかしこれら

はまだまだ政府間のもので、民間の真の友好では無いと思う。両国

の真の友好を育てる為には、まず日本人全てが過去の中国侵略の歴史を知り、深く反省すると共にそ

の事を今後の戒めとし、二度と過ちを繰り返さないようにする。

また中国人蔑視の思想を完全に

## 『沁園春』出版に寄せて

林 愛艶

ハセクレタリーV



二千年にわたる日本と中国の友好関係は、いつもゆったりと流れ行く大河に象徴されるようなものではなかった。大河には荒れ狂い、兩岸の人々を否応無しに呑み込み、混沌とした悪夢のような状態をもたらした。それが過去百年間の日本と中国の不幸な歴史であった。しかし、昨年九月二十九日の日中国交回復を境として、両国の関係はようやく桜の白い花

々を浮かべて静かに流れる大河に戻ったのである。

六月の初めに、私が編集した日中国交回復記念誌『沁園春』がどうにかこうにか出版出来る運びとなった。全く素人の私がこの本を出版しようと決心した動機は郭沫若先生の詩『沁園春—祝中日恢復邦交』を読んで深く心を打たれたからである。この詩は両国の今までの深い繋がり、また一方的な日本軍国主義の中国侵略によって両国人民が多大な災禍を受けたことを踏まえて、今後の両国の真の友好の在り方とその姿勢を端的に表わしている。

私は神戸に生まれ、ずっと神戸に住んでいる一華僑青年である。私の友人の半数は日本人であり、私達の世代には中国人蔑視の思想が無くなっているように思う。しかし老人の方または中年の方には

私拭する。もちろん朝鮮人に対しでもそうあるべきである。とにかく真の友好の為には世界各国の人民が偏見や先入観を無くし、相互理解と相互尊敬の精神をもって努力する必要があると思う。私は今回の出版が、はじまったばかりの新しい日中友好関係に少しでも役立ち、両国人民の相互理解促進の道しるべになることを願ってやまないのである。

## 業平祭に

よせて

工 登美子

八芦屋短歌協会代表V



むかし男、津の国うばらの郡あしやの里に知るよしとしていきて住みけり 伊勢物語の漂泊は業平の晩年を芦屋にゆかりづけている。命日の近づく五月の終りには芦屋短歌協会と公民館の主催で業平がうたった螢とぶ芦屋川畔に業平祭がひらかれる。

戦後、小学校の講堂を起点として二十二年目の今では黒一色のトン、ルナホールを贅沢に使用して

いる。

年が明けると幹事会は講師の選出に思い煩う。知名の先生方は多忙でおいそれと予定が頂けない。ことしは陳舜臣氏にお願い出来たが、阪口保、阪本勝、村山リウ、真崎修二郎氏にも依頼した記録がある。

六麓荘福田眉仙画伯の業平像は年毎にひなびて艶やかである。かつて妹尾太郎氏を煩わせたスライドの上半身は祭り毎スクリーンに大写しにされ、なつかしいにしえびと夢ならで今日あいまつるの独唱が流れ二曲目に幕が上ってほんものの軸が舞台中央にスポットを浴びいちにちの焦点となる。

左右金屏風緋もうせんが引廻され、献華献茶が同時に儀式づけられ(昔献香も行った)朝臣秀歌朗詠に続く市民の献詠歌、姉妹都市モンテペに学童俳句の披露もあった。

陳先生が盛沢山だから講演は短い方よろしと中国観を日本育ちの発想で淡々と述べられたあと、観世仕舞による杜若・井筒をアトラクションとし最後に公券歌選評受賞と選者も参加者も各市より交流、二百人未満はホールに空席を残してもエンエン継続されるこの祭りの金儲けにつながるでもない緑りの憩いは稀少価値である。人物像からずれる催しとして各

阪神版が報道した通り今年初めての若者達の前夜祭があった。

杜若の紫をシンボル衣裳に纏った若い男女が業平復活二十秒前というテーマでうずくまり立ち上りドラムを叩きギターに合わせ業平の和歌をも悲しく唱う。るいるいとふくらむ白い風船に卵子の原点がある由。そこへ虹の光線がさまざまな文字を映し出す、写真、オブジェ、短歌などの作品展示、ミーティングと捉われない時間帯の中に業平の疎外感が流されていた。

この二つの祭りは異質のものであるが、そこに共通して置かれた黒い冠があった。芦屋神社から拝借した古めかしい冠は地下のうす暗さから金屏風の前に紫の花を飾って浮び出ても共にふさわしく位した。藤原氏の権門から外された業平が凝視しつづけた空白はまれにみる象徴詩的詠風をもって王朝歌壇を風塵した、抵抗の黒い冠ではあるまいか。

古典の雅びであろうともよきものは常に新しい、しかし祭りの器は小学校の講堂から窓のない円型劇場へと変遷した。黒い冠を採点とした業平まつり定型と破調のないませを考えるべきときが来ている。この宿題を抱えながらホール狭しと走り廻った祭りの翌日は既定のコースピラ蓼科の山ふところへとあわただしく旅立たねばな

らないクラス会幹事の日常が待構えていた。

## 「神戸まつり」

### 裏方記

丸山 修

△神戸市民祭協会▽



晴天：人：ムード、すべての条件が揃った時、我々の苦勞も一べんに吹き飛んでしまう五月第三日曜日とその前日即ち「神戸まつり」の日である。一気に押し寄せたる疲労と安堵感、そして来年の「神戸まつり」の構想……我々裏方の準備はその時から始まる。大げさにいえば終りのない出発である。六カ月前は八時頃、五カ月前四カ月は十時～十一時、三カ月前ともなると連日午前様のご帰宅である、当世流行の親子の断絶というなまやさしいものではない、それも一カ月前ともなると何をかいわんやである。

その頃から「神戸まつり」のメイン行事であるパレード参加団体の陳容がほぼ決定する。ご存知のように、神戸の「特色」である

「ごった煮」の味を煮つめ過ぎたような種々雑多な参加チームである、約90団体8700名の内容を確認し、なおかつ不十分なものと連絡出来ないものについてはレコード屋まで出かけ「ただ」聞きをし、リズムの概要をつかみ不十分ながら準備OKとなる。

それからが大変!! 出来るだけパレードをスムーズに進行し観客や参加者に退屈感を覚えさせないようにさらに、与えられた時間内にお行儀よくおさまるようにな。さあ!! 出発。我々の出発は朝や昼でなく午前2時が毎年の行事である。というのは、なんぼなんでもラッパララ神戸ラッパララ神戸とペットを吹く真似をしながら片や花笠音頭を口ずさみながら手ぶり足ぶり?よろしく真昼のフラワロードや京町筋を歩けたものではない。が、午前2時ともなるとさいわいにして、人けも、車もほとんど休憩中……まれにアベックや酔っ払い、野犬それに巡回のおまわりさん等の姿が見られる程度。引く手さす手もあざやかに?といたいところだが悪戦苦闘の末やっと10～15団体の時間取りがすむころには、東の空も白々と新聞、牛乳配達の人々の始動である。家路につくころには初夏の太陽も顔を出し普段ならば気分爽快というところだが、なにしろ連日

連夜の午前様のことと一分でも早く横になりたい一心である。それと一日目か、よくて二日目、さすが三日目ともなると、毎年「俺はなんと馬鹿な事をしているんだろう。パレードがつまらうが、のびようが勝手にしやがれ!!」が、いつわりのない心境である。

さて、それからが大変。時間取りをした申込書をならべ、あてもないこうでもないと、パレード実行委員会が編成をするのである。やっと出来上がった仮編成を翌日自宅に持ちかえり「汽車ポッポ」(順序表)を又又徹夜で書きあげるのである。

さてあれやこれやで当日を迎えるのであるが、全員前夜から泊り込み、今年の朝も快晴で迎えた。六十五万人の人々の前で我々の苦勞の結晶が次々とくり広げられ無事に終了する後の気分の爽快さといいたいところだが、これも本音は、口をきくもおつこうな程の疲労感におそわれるのである。

「でも、よかったじゃない。市民の皆さんがあれだけよろこんでくれたんだから」とお互いになくさめ合う時始めて解放感を味わえる様である。さあ!! 来年の祭りに向って気分をひきしめ残務整理に精を出しながらこの稿を書いていきます。本当に皆様ありがとうございます。

□ある集いその足あと  
ぐるうぶ

“なんどいや”

中前 美明

(なんどいや 学芸部部長)



神戸まつりパレード フラワーロードにて

そもそも「なんどいや」とは疑問の意を表わし、頑張りの意を表わすのであります。顧みますれば六年前、天下の天利亜の居候、小川琢磨氏と数人の悪友によって結成され、すぐさまその後十数人になった時、今の「なんどいや」の基盤ができたのであります。当初の目的は「売れる物を書き、売れる物を造る」ということ

でありました。つまりデザインナー等の特許専門人種がほとんどであったわけですね。しかしその後月日がたつにつれましているんな人種が入会してまいり、それにつれまして当初の目的はくずれてはまいりました。が、スマートに学び、スマートに遊ぶぐるうぶに委身してきたのであります。それでも「なんどいや」はいまだに特異性が残っており、外目からは少々受入れにくい所があるそうです。私事になって恐縮なのですが、「なんどいや」は実に便利であります。それは、デザインナー・画家・建築家・洋裁屋・飲食屋・音楽屋・詩人・主婦・サラリーマン・学生・ひっかかり中 etc、ひとつのデパートができそうなくらい実に多種多様な人類の集合体なのです。ですからして何事をするにしても非常に便利であり、また色々勉強になるのであります。

さて私共ぐるうぶ「なんどいや」は神戸まつりだけの集団とみられがちなのですが、本当は年中休む事なく動きまわっているのです。当然の事ながら、春の神戸まつりは我々にとって大きなウエイトを占めております。夏にはキャンプ、秋には学芸会或いはハイキング、冬にはおもにパーティ、他に最低年一回は機関誌の発

刊、会員のウェディングパーティ、ボーリング大会、画廊でのなんどいや展等々、実にいそがしい春・夏・秋・冬なのであります。各会員もそれぞれできうるだけの協力をおしますこれらの催しを実に楽しくやって来、またこれからもやってまいるだろうと思うのであります。

このように非常に自由なぐるうぶなのではあります。他のぐるうぶと同じく、一応基礎となるなんどいや精神があります。それは神戸を愛していることです。それは常に若い心を持つていることです。そして日に数百円の小使いが自由になるということなのです。以上の三つの条件を満たされている方ならばどなたでも、私共「なんどいや」は諸手を上げてお迎えしております。

なんど、なんどい、なんどいや 私共はいつも成長したいと念じております。

なんど、なんどい、なんどいや  
なんど、なんどい、なんどいや  
なんど、なんどい、なんどいや

△連絡場所▽

生田区北長狭通五丁目一九の三

喫茶アメリカ・小川琢磨

TEL (三十四) 七〇三四



□ずいそう

★ヨーロッパの旅より

# 書の好きな ドイツ人

望月 美佐

〈書道家〉

さわやかな五月に、わたしのヨーロッパへの初めての<sup>なだち</sup>出発。

西ドイツのフランクフルトとケルンの街で「日本の芸術と伝統文化展」が海外日本文化活動の企画で開かれ、邦楽、邦舞、日本画、水墨画、草絵、華道、神道そして書道と、各界から二十八名がツアーをくみ、それぞれの作品展示と、デモンストレーションを行い、日本を紹介しようという試みに書家として加わることになったからです。

邦舞の泉徳右衛門さん、邦楽の石川潭月さんなど、ユニークに日本の伝統芸術にたずさわる方々ばかり。

フランクフルトは、工業都市にもかかわらず、緑の美しい街でした。美術館の大壁書(6m×9m)を書くために特大の筆は、奈良郡山市の博文堂さんまで出かけて求めてきたもので、展覧会の前日、白いブロード地の画面に、緋のモンペスタイルで「雲無心」という文字と大格闘いたしましたし



フランクフルトで美術館の壁書を書く望月さん

た。布地に書くのですべりが悪く、体力の限界に挑戦するようなもの。デッサイ筆を引きずり、足でくとばし、ええかっこをしていてはとても書けるものではありません。

美術館のミスター・マイスターは、書に造詣深く、理論的にいろいろお話のできる方でしたが、一般的に書は、ドイツの若い方をはじめ大変なものでした。わたしも講義は、通り一べんのものでなく、日本文字には、篆書、楷書、行書、草書のあること、それに独特のひらかな、カタカナが加わること、字源の面白さを「女偏が三人よれば姦しい」とか「男と男の間に女が入るとどう読むことになるか?」というと喜んで色々答えがでて「鬪る」となると驚くありさま、日本の国語の現状を通して字を書きながら話しかけました。講義がすむと「娘の写真をあげるのぞ母」という字の色紙をほしい」とか、その場で書いた色紙はまたたく間になくなり、そのうえ「加賀の千代女

の、朝顔につるべとられてもらい水と書いてほしい」「万葉集から一句……」「古今集からせひ……」

などと、日本文学の好きな方が多いのも嬉しいことでした。それも前衛でなく、古典からの注文なので……。せひ、アメリカでもやってほしいとの声もありましたが、これは、日本でもやってみるべき必要性があるような気がいたしました。日本の若い人々にとっても、古典はエキゾチシズムなのでしょうから……。そして、ケルンでもほんとに熱心な聴衆でした。テレビ、新聞でも報道されましたが、印象的だったのはドイツのテレビ局は、日本のあの喧騒ぶりからは想像もつかぬ静けさなのです。そして、「きもの」の威力は物凄く、この旅行にどんなに役立ったことか……。やはり日本人は「きもの」を大事にしないでとは感じたのです。

この旅で最大の収穫は「エジプト」でした。エジプト美術館の紀元前四、五千年の作品の圧倒的な素晴らしさ、ピラミッド、スフィンクス、が、自然の中に今も生きる神秘性、象形文字の信仰につながる起源の面白さ、今迄、ローマやパリで見えた美術が、かすんでしまいました。

昭和のわれわれは何をしているんだらう。この何代にもわたって神への奉仕として、何百年もかかって作りあげたこの「美」。ああ、わたしは、とても太刀打ちできないやと思うと、この不可能に近い、現代人には気の遠くなりそうな力に、シユンとなってしまいました。人間技ではないみたい……。今、昭和に生きている人間は、何をしな



エジプト原地で衣裳をまとい頭骸骨と

くてはいけななのか。どう生きればいいのかと、改めて考えさせられます。

また、夜の十一時にエジプトの踊りを見るため車で走りサハラシテイの、原地人の TENT キャンペーへ行くことになり、わたしは原地人の運転する車へカメラマンと二人乗ったのですが、行けども行くけども真暗な砂漠の中をひたすら走りつづける砂漠の夜は、神秘的で、星は輝き、点々とあるピラミッドに感嘆していたのですが、長時間たつにつれ、このままどこか、変なところへつれ去られるのではないかと、ふと一抹の不安がよぎると矢もたてもたまず心細い限り。カメラマンは八台のカメラを持って覚悟を決めておいたほうがいいですねとだんだん生きた心地もなく青くなりました。

やっとサハラシテイの灯が見えてきたときの、やっととしたこと……。観光用のヘソ踊りをみたり、原地人のハエが顔中にくっつき子供達と遊んだりエジプト衣裳を着て、帽子をかぶり日傘をさしてラクダに乗ったり、思いきり開放感を味わいました。

頭骸骨散らばる砂漠で、八ミリのラストシーンをとるからと、映画「モロッコ」よろしく、頭骸骨を持って走ったら「危いノ 危いノ」とカメラマン。ヒョイと後をふり返ると、砂漠のかなたの周囲から、機関銃の銃口がみんな、こっちをねらっていたのです。撮影禁止の緊迫した中を堂々と走りまわり、ヒヤリとした一瞬もなつかしい思い出となりました。

□れんさい随想〈7〉

# ブラジル無宿

津高 和一（絵と文）

△画家・大阪芸術大学教授▽



あ

バイーアのカーニバルは熱気そのものだった。群衆は日頃うつ積したものを爆発させているかのようなもので、汗みずくの狂宴の塊だった。

その頃（十五年以前）はまだ日系人たちの入植者もあまりなく、昼中僕たちが街を歩くともの珍らしくて反対に僕たちが見世者になっっているようなものだった。

それでも素朴な彼等は随所で好意を示してくれた。閑散な日中を

チャータしたおんぼろタクシーで街のあちこちを見物した。夜もまたホテルに迎えにきてくれと約束していた。ホテルで休息をし、夕食を済ませてから気づいたのだが、タクシーの中へ8ミリカメラを忘れてきたのを思い出した。

約束どおりタクシーが来るか、こないだろうか、と同行の間部君と話していたとき、そばに居たギャルソンが、バイーアには泥棒はいない、といったのが印象的だった。はたせるかな、その時間にホテルの玄関で8ミリカメラを持った手を高く差し上げて合図している運転手を発見してなるほどおもったものである。バイーア人は素朴で、正直なのが特色だった。反面かれらは短気で、粗野で刃傷事件もよく起した。単調な生活に伴うドラマでもあったのである。南欧風の退色した赤い屋根瓦が起伏する坂越しに折り重なり、鈍重に蟠居している風だった。ポルトガルの四百年前の入植の拠点の地であり、開拓の古い歴史が垢にまみれている街でもあった。台地の高所に立つと街景が一望にできた。カトリックの寺院の尖塔が隨所に散見できた。

豊かであるとはおもえない庶民生活の中で、この数多い寺院が果してきた役割は、背後に連なる原始の原野と人間営為の関係を物語っていたし、植民政策とも無縁でないことの象徴でもあった。

抜けるような空と、紺碧の海に囲まれたこのバイーア、サルバドルはカーニバルが終るとまた元の平穩無事な無気力で平靜な街に戻るのであった。

ホテルのレストランの料理に飽きると街のレストランによくでかけた。隣席のバイーア美人にたどたどしいレポートの紙片をギャルソンに託してデートの約束をしたりしたのも、いまからおもうと開放感がさせる旅の特権のようなものでもあった。

生きている、という実感が身近に漂うのである。それにしてもサンパウロ、ビエンナーレ出品の僕の作品を買ってくれ、また、マナブ・マベとの二人展をバイーア近代美術館で計画し、旅費、ホテル滞在等一切の費用を出して招待してくれたオドリコ・タバール氏の存在は、実にブラジルの大様さである見ごときさを持つていた。

□ずいそつ

# 「きょうも目エ

# 「さめたわ

大山 昭子<sup>しょう</sup>（絵と文）

〈木彫家〉

えらいよう寝すごした。と、ベッドからとびお  
りる。

「あ、ア。いま、すんなり起きられた、うれし  
いなあ」

「あ、ア。ちゃんとあるいてるわ」

「あ。いま、トイレに腰かけた」

「なんの苦もなく、オシッコもよう出るし、手  
も勝手に動いて紙をちぎってる！」

「すんでもすぐに立ち上れる！」

「カオを洗って、きれいにふいて、髪の毛とい  
て」

「鏡にうつった自分のカオみてる、このきょう  
のカオ」



「いよ（色）はくよ（黒）でも、なんよ（南  
洋）や（じゃ）びびん（美人）、小っちゃいとき、  
そればかり唄うてたらしいけど。いまは、そん  
なんクソ喰らえ」

「そやけどオ、ほんまにイクロい子や。昔、今  
東光さんが河内の天台院へ来はったころ、あの目  
エで、じいつとみてから、あんな、昭子、色の白  
いのは七難かくす、黒いのは、八難かくす、  
て言うんやで、そやからええんや、て、言うてく  
れはったけど、なんにも聞いてへんのに、そんな  
こと、わざわざ言いはったんが可笑しかったなあ」  
「かあちゃん、なんで、かあちゃんみたいにな、  
かわいい鼻にうんでくれんかったん？昔むかし、

よう、そう言うて、かあちゃんにムリ言うたら、かあちゃんが、あんた、そんなこと言うけど、あんたは、とうちゃんの高いのんと、かあちゃんの丸いのんを合せてもろたんよ。それに、あんたは文句言うてるけど、鼻は人生の花や、て、言うて、大切などこなんよ、そやからカオの真中にあるでしょ。中心が、しつかりしないと、なんでも案配いかんもんね、高いからイヤヤとか大きいからきらいや、とか、そんなこと思うたら罰あたります」

「うん、そやさかい、まだ、おなじもんを持つてるやんか、うん。そんでも前とはちよっと見る目がかわつたよ、ホラ、かあちゃん、自分が死ぬまえに、弟たちに言うてたでしょ。あんたたち、失恋におわつても、早う恋をしなさい、恋をしたら、どんなに自分のことがわかつてくるか、これがいちばんええ勉強になるわ、て。まあ、ね、ちよっとこれとは、ちがうやろけど、うちも、ね、とうちゃんが、うちを貰うてから、何げなしにね、こんなこと言うたんよ、鼻みて、昭子もろたんやで……」

「怒つたあとで笑いこけたけど、ほんまに世の中なにごうまいこといくかわからへん、おおきにいかあちゃん、こんなんにうんでくれてありがと」

「おや、きょうはうまいこと階段おりられる、ああ、うれし」

「そ、やった。きのうは、腰痛で足ひきずつたもん、十三年前の個展の前日、大きな作品に最後のノミを入れたとき、右手の木槌をふりおろした瞬間、くの字に曲つたまま動けなんだ、あれか

ら、チョコクチョコ痛むもん」

「とうちゃん、スイスイ足が前へ出てくれるう」「やあー、おいし。きょうのコーヒー、濃さ加減がちょうどええなあ」

「うち、いま、とうちゃんとならんで、キミちやんとヨシコちゃん、必要ちゃんにフクちゃん、六人で神戸屋のあのまるうい固いパンにバターと蜂蜜つけてたべてるわ、おいしいなあ、なんで朝から、こんなに美味しいんやろオ」

「おいしい、おいしい」

「とうちゃん、きょうはロケの撮影、ずつと天気よかつたらええのにねえ、空が青いわ、心配いらんわ」

「さあて、と。ウンコしとなった」「うちのおしり、肉おおなつた、おなかも、やわ」

「……なんと、きょうはスラスラ出てくれる」

「とうちゃん、とうちゃん、うちのウンコ、絹のハダ。きれいな色して、形もホンええこと」

「おさきイ、さあさあ、とうちゃんもしてちゃうだい。出るウ？」

「よかつたなあ、仰山でてエ」

「ほんまの運勢は、これで見らんや、て。そやろなあ、そうやろ、と、うち思う。はつきり思う」

「いきてるから、ウンコ出んねんなあ、て。そのウンコで、どんな生きかたしてるんか、よう、わかるやんか、そやから。」

「ああ、ええきもち」

「ええきもち、て、思えるのんが、ほんまにええきもち」

「よかつた！ よかつたなあ、うれしいなあ、それ、うれしいわあ、きょうも目エさめたもん」

# '73年の夏に乾杯!



- 神戸駅前日生川崎ビル屋上
- 大丸神戸店屋上 (ベッコ ビヤ ポート)
- オリエンタルホテル屋上庭園

## BEER GARDEN

名物ジンギスカン料理★3000円・3500円・4000円・7000円

六甲オリエンタルホテル  
TEL 891-0333

## 経済ポケット ジャーナル



★姉妹都市提携のため  
ソ連のリガ市長ら来神  
五月十七日、ソ連のラト  
ビア共和国からグナル・ジ  
ニメリスリガ市長の一行が  
姉妹都市提携の最終的な打  
ち合わせのため来神した。



相楽園会館でのレセプション

リガ市は欧州向けの貿易  
港で、日本にはなじみは薄  
いが日ソ協会を通じて神戸  
市に縁組みの働きかけがあ  
り、昨年六月宮崎市長が訪  
れた時姉妹都市の話し合いを  
進めていた。

一行は十七日朝、市役所  
に宮崎市長を表敬訪問し、

午後は川重神戸工場と須磨  
離宮公園などを見学。夜は  
相楽園で開かれた歓迎レセ  
プションに出席し、親睦を  
深めあった。

ジネメリス市長は「リガ  
市は人口七十七万人。バル  
ト海沿岸ではレニングラー  
ドに次いで大きい町。ソ連  
内でも文化的な中心地帯で  
産業の発展はめざましい。  
私達はこの滞在で神戸市  
と市民の生活をよく知るこ  
とができて嬉しい」とあい  
さつ。

一行は二十日まで神戸に  
滞在し、神戸まつりにも出  
席して市民との友情を深め  
た。

★山陽電気鉄道新社長に  
鳴坂健二氏就任

山陽電気鉄道線(長田区  
御屋敷通三丁目の一)の  
深水惣吉氏はこのほど社長  
を辞任し、取締役会長に就  
任した。

これにともない、深水氏  
の後任として鳴坂健二氏が

新社長に就任した。  
鳴坂氏は明治四〇年七月  
生まれ。昭和八年同志社大  
学法学部卒業。  
山陽交通社、舞子ホテル  
の社長、山陽タクシー、神



鳴坂健二氏

戸高速鉄道、明石ステージ  
オンデパート、明石ヘルス  
センターの取締役、山陽百  
貨店、山陽交通、大阪電機  
工業の監査役などの関係事  
業も兼務している。

★柏井ビル完成

三宮駅北側、加納町四丁  
目に建設が進められていた  
柏井ビルが完成し、六月四  
日より営業を開始した。  
これにともない柏井紙業



完成した柏井ビル

株式会社の新事務所はこの  
ビルの四、五階に移転した  
新事務所の所在地と新電  
話番号は左記の通り。  
新事務所〒650神戸市生田  
区加納町四丁目一番地  
(旧所在地)

TEL〇七八―三二一―  
三六〇一(代表)

★三菱重工機神戸造船所長  
に富 敦治氏就任

三菱重工機神戸造船所長  
の林豊氏はこのたび本社の  
長室開発部長に就任し、後  
任として下関造船所長の富  
敦治氏が就任した。

### ★ KOBE オフィスレディ ★



伊藤昭子さん(22歳) 住友生命神戸支社

小柄で可愛いお嬢さん。勤務してから4年との  
こと。仕事は面白いですか—ええ、ムニャムニ  
ャ(笑)。成程、分りました(その実、何も分っ  
ていない)。結婚は?ときこうとしたけれど、ど  
うせムニャムニャだ、やめた、と思っていると、  
結婚退職なんてカッコ悪い感じネ、なんていわ  
れ、おやおやと思ったり。女心は分らないデス。  
(市立須磨高校卒)



★既成市街地に、新たに緑地をつくることは難しいものです。また地下街や歩道橋など、今までにはない環境が増えてきました。そのなかから生まれてきた新しいみどりの形の二、三について考えてみたいと思います。

★道路にて 従来の植樹を設け、そこに樹木を植え込んでゆく方式では、期待できなかった演出効果もあり、道路植栽のこれからのあり方の一つの方向を示しているものと思います。

★地下街にて 地下街が、単なる道路から商店街へと変わってきた過程で、生み出されてきたものです。商業活動と密接に結びついたもので、本来の意味で、みどりといえるか疑問です。今後、地下街が商店街として増え続けるにつれ、このようなみどりも新しい工夫が加えられ増えることでしょう。

★歩道橋にて 車によって道を奪われた人間を象徴する空間に、いくらかでも人間の空間らしさを装わせる工夫でしょうか？

★他にも、屋上庭園などとして似たような工夫もあります。いずれにしても、都市構造の根底にかかわっていくものではなく、対症療法的な知恵であると思います。このような新しく登場してきたみどりに対して、古くからあったみどりが、どのようなものであったかを次回に考えてみたいと思います。

(島山 通之)

- ① 市役所前にある移動式の街路樹
- ② 国鉄三宮駅南の歩道橋。季節の花が植えられている
- ③ さんちかタウンにあるみどり。待ち合わせなどによく使われている。
- ④ オリエンタルホテルの屋上庭園

## 神戸のアーバンデザイン

④

⑦⑥

街のみどりをふやす知恵——現在

水谷順介＋チーム・UR

●マンションがあらこちらにできています。しかし最近、マンションの分譲価格も諸物価急騰のあおりを受けてうなぎのぼりだそうです。聞くところによると、坪当り単価（1坪あたりの分譲価格）が50万円から、最高80万円位のものでてきたそうです。

ところで、マンションの分譲価格の中で、生活に最も密着した分野である“内装工事”の占める割合は二割近くもあります。本来、インテリア（内装）は住まう人が自由にアイデアをもちこむことができるものです。分譲価格が高くなり、それでも都市における住まいの方の一つとしてマンションが注目されているにもかかわらず、全てが固定化されたマンションがほとんどです。その事が次のような不満としてでてきています。①間取りに自由度が全然ない。②やはりコンクリートの箱の狭苦しさ、冷たさが感じられる。③収納スペースが少ない。等々。

●このマンションは、これら三つの問題点に挑戦して設計してみました。

まず、<sup>くたいりょう</sup>躯体壳（間仕切、仕上等内装）をせず、コンクリートのままのマンションを手に入れました。次にインテリアの素材は自然に近いものを厳選しました。木、焼物、紙、白壁等です。そして、間仕切兼用の収納家具を床から天井まで一ぱいにつくりつけました。

サイズや場所はどこに何をどのように収納するかを決めてから設計しています。もちろん照明は全て白熱灯です。夜、窓の外から眺めると、その家だけがほのほのと暖かい光につつまれているのがわかります。住まいのインテリアとはこのように、人間にもっと近いものであってほしいものだと思います。

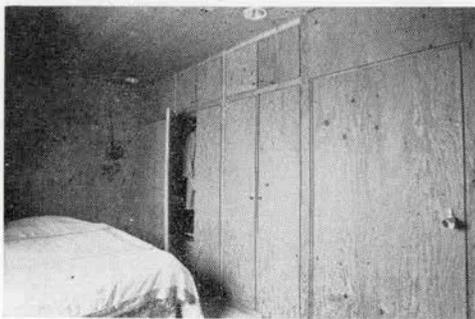
（おおたかやす）



リビングダイニングルーム  
床—クリンカータイル  
壁—白壁（プラスター）  
敷物—花ゴザ  
天井—米松



左手 リビングダイニングルーム  
右手 和室—つくりつけのタンスがセットされています



ベッドルーム  
床—カーペット  
壁、天井、つくりつけ洋服ダンス—米松

# ☆技術ジャーナル ⑦④

## マンガン・ノジュール

諸岡博熊

〔阪神外貿埠頭公園工務部長〕

非鉄金属の地下資源は、精錬に当って硫化物を主要組成としているので、亜硫酸ガス公害の元凶となりやすいが、マンガン・ノジュール(団塊)は、酸化物であるため硫黄分を含まず無公害資源としての特質をもっている。

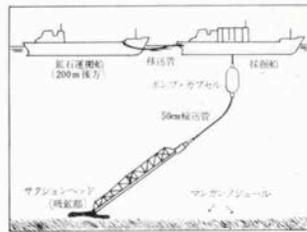
ノジュールは海底資源として発見されてからすでに一〇〇年もたっているが、①経済的採掘技術、②精錬方式、③製品競争力、④国際法の問題……など解決されるべき問題が山積していて、開発途中のものといえる。

マンガン・ノジュールの鉱業的見地からみた分布は日本はきわめて有利で、北太平洋は諸条件に恵まれているといえる。すなわち、その高濃集帯は中央アメリカ沖からマリアナ海溝東側壁までの間、北緯二〇度から北緯六度三十分のところにある。

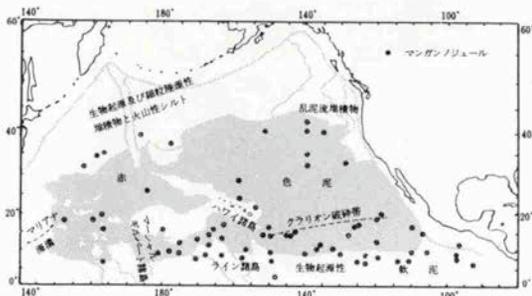
水深四、五、〇〇〇メートルの平坦な深海海上上の堆積物——主として赤粘土の表面近くにある。海上上の不規則な岩上にもあるが



第1表 採掘システム



第2図 流体ドレージシステムの概略図



第1図 北太平洋におけるマンガン・ノジュール分布図

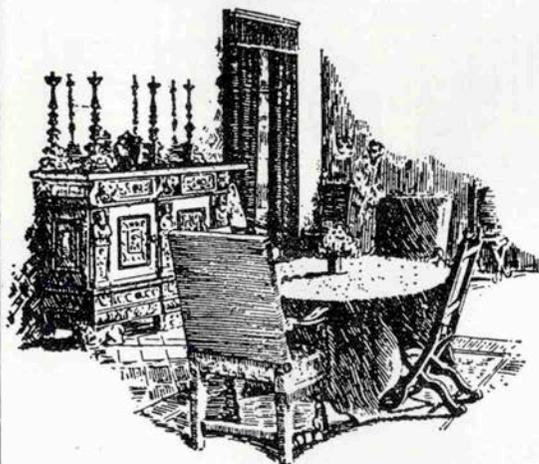
採掘は海盆を狙っている。採掘はまず赤粘土に半ば埋まっているので粘土層の掘削から始める。その方法としては、機械的な方法(トラクタ、クローラ、曳航バケット等)や流体的な方法(噴流水、サクシオン等)があるが、採掘システムは、第一表のとおりである。

普通、鉱物資源の精錬を行なうとき、まず選鉱工程から始まる。湿式磁選とか静電気選鉱とかの物理的分離法がそれであるが、マンガン・ノジュールの処理は物理的分離法が困難なためつぎのような処理法による。

- ① 直接浸出法。
- ② 還元ばい焼後浸出法。
- ③ SO<sub>2</sub>排ガス(NONを含む)を処理して後浸出、硫酸ばい焼後浸出。
- ④ 塩化ばい焼、塩化揮発、塩素化、塩酸ガス処理。
- ⑤ 銅、ニッケルのセグレージョン。
- ⑥ 乾式炉で溶解し、マンガンスラグと金属をうる方法。
- ⑦ 浸出液に対する各種処理法。
- ⑧ その他。

なお、第一図はマンガン・ノジュールの北太平洋分布図、第二図に、新しい採掘システムの一例としての流体ドレージシステムの概要を示す。

欧風家具・婚礼家具



★店頭で働くお嬢さんを募集中!

設計・創作

永田良介商店

神戸市生田区三宮町3丁目 大丸前 TEL 神戸(391)3737  
(代表)

東京店・東急百貨店 {日本橋店内6階 TEL 03(221)0511  
本店(渋谷)7階 TEL 03(462)3180  
工場 神戸市垂水区多聞町小東山 975-35  
神戸木工センター TEL (078) 706-5005 (代)

まごころをお菓子にたくして  
おとどけください



お中元 贈答好適品

●味覚の芸術品

ゴ ー フ ル

¥500-¥3,000

●プリン・水羊羹・マロン  
ンビエールの詰合せ

ファミリーセット

¥600-¥2,400

●風月堂の銘菓をコーディネート  
イネイトした

銘菓詰合せセット

¥1,000-¥5,000

神戸にそだって75年

 風月堂

元町3丁目 TEL391-2412~5  
さんちかスイーツタウン TEL391-3455

真心を贈り届けて

50年



ドイツ菓子

Fulheim's

ユーハイム

このマークの店でお買求め下さい

本店 三宮生田神社前 TEL(331)1694  
三宮店 三宮大丸前市電筋 TEL(331)2101  
さんちか店 三宮地下街スイーツタウン内 TEL(391)3539  
貿易センタービル店 三宮貿易センタービル地下1階 TEL(251)0139

おんがら庵



きものと細貨

おんがら庵

神戸

西店/三宮センター街・電話 331-8836(代)  
東店/三宮センター街・電話 331-0629  
三宮店/さんちかタウン・電話 391-4303

東京

銀座コア店/4階着物コア・電話573-5298(代)  
渋谷東急店/5階和装名家街・電話462-3409(直)  
日本橋東急店/4階和装名家街・電話211-0511(代)  
(内線294)  
池袋バルコ店/4階着物小路・電話987-0561(直)